

平安杯 第71回 全九州バレーボール総合選手権大会（高校の部）県予選会  
兼 第80回 国民スポーツ大会選手選考会  
抽選会および代表者会議資料

日時：令和8年4月10日（金）14：00  
場所：北中城村立中央公民館 ホール

## 1. 競技日程および会場

令和8年4月18日（土） 男女1～3回戦

豊見城市民体育館 A・B・C・D

浦添高校 E・F 浦添商業高校 G・H 那覇国際高校 I・J

首里高校 K・L 沖縄工業高校 M・N 豊見城高校 O・P

令和8年4月19日（日） 男女準々決勝戦および決勝リーグ第1戦

豊見城市民体育館 A・B・C・D

令和8年4月20日（月） 男女決勝リーグ第2・3戦

豊見城市民体育館 A・B・C・D

<最終日のコート、組み合わせおよび試合順について>

決勝リーグ第2戦は、4コート同時に行い、その組み合わせは、「第1戦の勝ちチーム」と、未対戦の「第1戦の負けチーム」とし、上位シードを有するチームの試合をB・Cコートで行う。ただし、シードが同順位、または、どちらともシード権を持っていない場合には、組み合わせ表の左に記載されているチームの試合をB・Cコートで行う。

決勝リーグ第3戦は、B・Cコートで行い、「第1戦の負けチーム」同士の試合を先に、「第1戦の勝ちチーム」同士の試合を後に行う。

## 2. 開館および試合開始時刻

開館時刻 08：50、試合開始時刻 09：30（大会2日目のみ10：00）とする。

## 3. 参加チーム一覧

【男子】 北山 名商工 名護 石川 前原 具志川 読谷 美里+美咲 美来工 コザ  
美工 北谷 普天間 宜野湾 西原 浦商 浦工 陽明 昭薬附 浦添 那工  
那国際 興南 首里東 首里 沖工 沖尚 那商 那覇 小禄 那覇西 南風原  
知念 豊見城 豊南 南商 向陽 糸満 宮古 宮総実 八商工 八重山

男子 42 (44) チーム

【女子】 本部 名護 宜野座 石川 具商 前原 具志川 与勝 読谷 コザ 北谷  
北中城 普天間 中商 宜野湾 西原 浦商 昭薬附 浦添 那国際 興南  
首里東 首里 沖工 那覇 小禄 那覇西 南風原 知念 豊見城 向陽 糸満  
宮古 八重山

女子 34 (40) チーム

計 76 (84) チーム

( ) 内は昨年度の数

## 4. シードチーム

【男子】 第1～4シード：首里 美工 西原 那工  
ベスト8シード：普天間 宮総実 豊見城 豊南  
会場運営シード：首里 沖工 豊見城 (8分の1ゾーン)

【女子】 第1～4シード：西原 具商 那覇 北中城  
ベスト8シード：首里 小禄 前原 向陽  
会場運営シード：浦添 浦商 那国際 (8分の1ゾーン)

## 5. 抽選手順

- ① 第1～4シードを入れる
- ② ベスト8シード：予備抽選 ⇒ 位置抽選
- ③ 離島チーム：予備抽選 ⇒ 位置抽選（初戦での離島チーム同士の対戦を避けるため）
- ④ 会場運営シード：予備抽選 ⇒ ゾーン抽選＋位置抽選
- ⑤ 北のチームから：予備抽選 ⇒ 位置抽選

## 6. 代表者会議

- (1) 競技運営上の確認事項について
- (2) 審判上の確認事項について
- (3) 総務からの連絡事項について
- (4) その他

## 7. その他

- (1) ユニフォーム規定等について
  - ① 日本バレーボール協会「ユニフォーム規程詳解」の発行に伴う本専門部の対応について
  - ② 高体連主催大会におけるユニフォーム規定について（補注つき 2026 年版）
  - ③ 大会参加チーム構成員のウエアについて
- (2) 「体罰根絶全国共通ルール」について  
⇒ 別紙および全国高体連 Web サイト内の【体罰根絶に向けた取り組み】ページにある、「体罰根絶全国共通ルールの制定について（通知）及びQ&A」を参照  
( [https://www.zen-koutairen.com/pdf/konzetsu\\_rule\\_h05\\_0519\\_faq.pdf](https://www.zen-koutairen.com/pdf/konzetsu_rule_h05_0519_faq.pdf) )
- (3) 2026 年度競技日程等について

県総体	（那覇地区・豊見城市民体育館）	5/30（土）～ 6/2（火）
定通夏季	（豊見城市民体育館）	5/30（土）
県1年生	（南部地区・宜野座アリーナ）	8/10（月）・11（火）
春高予選	（中部地区・豊見城市民体育館）	10/31（土）～ 11/3（火）
定通秋季	（宜野湾高校第2体育館）	11/ 7（土）
県新人	（北部地区・豊見城市民体育館）	12/12（土）～ 15（火）
NIKKEI CUP	（中部地区・豊見城市民体育館）	1/23（土）～ 25（月）
- (4) 「春の詩」について

## 競技運営上の確認事項

大会競技委員長

1. 本大会は、2026 年度公益財団法人日本バレーボール協会 6 人制競技規則および競技要項により実施する。
2. 試合は全て 3 セットマッチとする。準々決勝戦までトーナメント方式で行った後、上位 4 チームによる、総当たりの決勝リーグ戦を行う。
3. 大会 1 日目の豊見城市民体育館のコート設営は、第 1 試合のチームが 08:30 に入館して行う。
4. 監督またはコーチは、試合当日 08:30\*より各会場にて行われる代表者ミーティングに必ず参加すること。ただし、第 4 試合のチームについては、その限りではない。  
\* 大会 1 日目の豊見城市民体育館会場の代表者ミーティング開始時刻は、コート設営完了の目処が立ち次第、競技副委員長より館内放送にて連絡する。
5. 開館および試合開始時刻は、「抽選会および代表者会議資料」に記載してある通りとする。全試合 60 分設定（試合開始時刻はホイッスル時間）で進行し、それより早く開始することはない。試合の当該チームは、前試合の両チームのコートアウト後（試合が連続する場合は、前試合の終了 15 分後）、審判員の指示に従ってコートインし、10 分間（補助員に引き続いて試合となる場合\*は、20 分間）の合同練習後、プロトコールに入る。前試合が早く終了した場合のコートイン時刻は、試合開始時刻の 25 分前とする。  
\* 補助員後に試合のチームは、補助員を終え次第、速やかに試合の準備をすること。
6. 開館から第 1 試合のプロトコールまでの、コートでのウォームアップについては、以下の通りとする。

2 日目以外	開館	～	第 1 試合プロトコール	⇒	第 1 試合の両チーム	
2 日目のみ	開館	～	09:20	⇒	第 2 試合の両チーム	
		09:20	～	第 1 試合プロトコール	⇒	第 1 試合の両チーム
7. 大会使用球は、下記の（公財）日本バレーボール協会検定人工皮革カラーボールとする。  
男子：ミカサ（V300W） 女子：モルテン（V5M5000）
8. チームの構成は、監督・コーチ・マネージャー各 1 名、選手 14 名以内とし、選手が 13 名以上の場合は、リベロプレーヤーを必ず 2 名含むこと。なお、監督・コーチ・マネージャーの各章は、規定のものを各チームで用意し、明確に判別できる位置に付けること。また、監督・コーチが外部指導者の場合は、登録証も身につけておくこと。
9. 引率責任者は、監督・コーチが共に外部指導者で、マネージャーが生徒の場合、プロトコール時に、主審による所在確認を受けること。
10. 選手のエントリー（18 名以内）およびベンチスタッフの変更は、「エントリー変更・追加届」（公印のないものは受け付けない）の提出により行い、当該チームの初戦開始 30 分前までに、引率責任者が本部席にて行うこと。これ以降の変更は一切認めない。  
※ 令和 8 年 3 月 27 日付で本県バレーボール協会会長より発出された、「令和 8 年度 公益財団法人 日本バレーボール協会（JVA）および 沖縄県バレーボール協会 への登録について（依頼）」に記載されている通り、未登録のチーム・選手・スタッフは参加できません

11. チームは、各試合の「コンポジションシート」を、第1試合については、試合開始時刻の30分前までに、第2試合以降については、前試合の第1セット終了までに、エントリー委員に提出すること。ただし、試合が連続する場合は、前試合終了後に速やかに提出すること。また、各試合終了時に、レフェリーより受け取り、試合毎に提出すること。
12. 「ラインアップシート」は、公式ウォームアップ時にセカンドレフェリーまたはスコアラーに提出すること。
13. 隣のコートで試合が行われている場合の練習はパス程度とする。
14. 競技エリア内でのウォームアップおよび公式ウォームアップは、チーム（上記8）で行うこと。ただし、統一された服装であれば、部員4名以内をボール拾いとして認める。また、チームから配置するクイックモッパー（下記17）についてもボール拾いとして認める。
15. 公式ウォームアップ終了15分後になってもコートに来ないチームは棄権とする。
16. 補助員（記録・点示・ラインジャッジ）は8名とし、前試合の負けチームで行う。ただし、大会1日目の第1試合については、当該コートの第3試合のチームで行い、大会2日目の第1試合については、当該コートの第2試合のチームで行う。また、大会3日目については補助役員を配置する。
17. プレーヤーの安全とスムーズなゲームの進行を確保する目的で、各チームから2名のクイックモッパー\*を配置することができる。  
\*各チームは、フロアモッピングがスムーズに行えるよう、事前に、ルールブック p.161-p.162 の「フロアモッピングアシスト」を熟読し、トレーニングしておくこと。
18. ユニフォームとは、ゲームシャツ・ゲームパンツ・ソックスを指す。ユニフォームは配色やデザインが、ソックスは色および長さが統一されていることとする。また、ゲームシャツの裾については、必ずゲームパンツに入れなければならない。
19. 太鼓等\*の応援は、試合進行の妨げにならない限り認める。  
\* 拡声器の使用は、試合への影響を考慮し、高校会場においては認めない。また、使用する際は、コートへ向けての使用は禁止とし、応援席側へ向けて使用すること。
20. ボールまたはプレーヤーが、隣接するコートの近い方のサイドラインを超えた場合、アウトオブプレーとなる。

### 審判上の確認事項

大会審判委員長

1. 本大会は、2026年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則による。
2. チームは監督・コーチ・マネージャー各1名、選手14名以内とする。選手は、18名まで申し込むことができ、試合毎に14名をエントリーすることができる。但し、13名以上をエントリーする場合のリベロは2名でなければならない。

3. リベロは、チームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。
4. リベロは、チームの他の選手と、主要な部分の色が異なるユニフォームを着用しなければならない。ユニフォームの色は、チームの他の選手とは明らかに対照的でなければならない。2人のリベロはチームの他の選手と異なる色で、さらにお互いに異なる色のユニフォームを着用することもできる。
5. 試合開始前、監督は選手の名前、番号をスコアシートのチーム選手欄に記入するか、記入されたものを確認した後、サインする。(チームキャプテンの番号を丸で囲み、リベロの番号を記入しサインをする。)また、チームキャプテンはチームを代表してトスを行い、トスの開始前と試合終了後にサインをする。
6. 各セットの開始前、監督は、正しく記入されたラインアップシートにサインし、セカンドレフェリーまたはスコアラーに提出する。ラインアップシートが提出されたら、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することはできない。
7. セット開始前に行うラインアップシートとスターティングプレイヤーの照合の際は、リベロを確認する必要はない。(リベロはベンチで待機)
8. コート上で円陣を組んで掛け声をかけるケースについては、ラインアップシート確認後は最大限スターティングメンバーの6名とリベロ2名の計8名までとする。
9. タイムアウトを要求できるのは、監督である。その際、ラリー終了後に公式ハンドシグナルで明確に示すこと。
10. チームメンバーによる不法な行為(相手に向かって“ガッツポーズ”などで挑発・威嚇する行為など)に対しては、競技規則第21条「不法な行為とその罰則」に則って罰則を適用する。
11. 判定に対する質問は、ゲームキャプテンのみであるので、監督や他の競技者からの質問は受けつけない。(判定へのアピール等は警告の対象となります。)
12. 試合の前後は、選手全員がエンドラインに整列し、主審の合図で挨拶(握手)する。なお、試合終了後に監督とキャプテンは、審判員にも挨拶(握手)する。
13. 競技中のコートワイピングについては、プレイヤー自身がコートを拭くことを原則とする。(ワイピング用タオルは、チームで余分に準備し、スターティングプレイヤー全員が持つことが望ましい。)
14. 競技中の服装について  
アンダーウェア等について(競技要項 p.62 抜粋)
  - (1) アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されない。
  - (2) 医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険である場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。
  - (3) 明らかに色が違う腰に帯状にまくサポーター・コルセット類はユニフォームの下に着用しなければならない。

#### 【選手交代の手続きに関する確認事項】

15.10.4 チームが2組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合、交代は1組ずつ連続して行われなければならない。そのうち1組が不法である場合、正規の選手交代は許可されるが、不法な選手交代は拒否され遅延行為に対する罰則が適用される。

昨年度 → 2組以上の選手交代をする場合は、連なっていなければ認めない。

今年度 → 1組目の選手交代の手続き\*が完了する前に、2組目の選手交代をする選手がサブスティチューションゾーンに入ってきていなければ、2組目の選手交代は認めない。

\* 選手交代の手続き完了⇒スコアラーが記入を完了し、両手を上げてセカンドレフェリーに合図を送ることをいう。

#### 総務からの連絡事項

大会総務委員長

1. 参加者全員、服装を正し高校生としてふさわしい身なりと態度を心がけてください。
2. 各会場とも、体育館以外の施設へは立入禁止です。
3. 貴重品は各チームで責任をもって管理し、置き引きや盗難に注意してください。
4. 各会場とも、ごみは各チーム責任を持って持ち帰りをお願いします。
5. 更衣室・ロッカーの占有は禁止です。チームの荷物を置きっぱなしにしないでください。
6. 体育館は土足厳禁となっています。外履き内履きの区別をしっかりとしてください。また、玄関の靴を脱ぎ履きするスペースは、靴を置く場所ではありません。他の人の出入りに迷惑が掛からないよう、玄関に靴を置きっぱなしにせず、チーム関係者は各自で靴袋を準備し、靴の管理をお願いします。
7. 高校生の運転する車両での来場は禁止です。
8. 毎回忘れ物が多数出ます、気をつけて下さい。
9. 未登録の選手及び登録料未納の選手がいる場合、大会当日までに登録・支払いを済ませて、チーム所属メンバー一覧表の差し替えをお願いします。
10. 各会場、駐車場スペースは限られています。毎回、違法駐車等、近隣住民からの苦情やトラブルが発生しています。混雑を避けるため、応援団の方々は公共交通機関等を利用する等、協力をお願いします。

※ 今大会は、駐車場として与根漁港は利用できません。

2026年3月26日

各都道府県高体連バレーボール専門部 委員長様

(公財)全国高体連バレーボール専門部  
競技委員会

## 日本バレーボール協会「ユニフォーム規程詳解」の発行に伴う本専門部の対応について

2026年3月23日に日本バレーボール協会（以下 JVA）よりユニフォーム規程詳解が発表されました。この資料は現行規定の解釈を主目的としながら、アンダーウェアの着用に関しては一部改訂の内容が盛り込まれております。これを受け、本専門部における今後の対応方針を下記の通り決定いたしましたので、ご確認の上、関係各位への周知をお願いいたします。

また、資料として本専門部のユニフォーム規定を同封いたします。この規定には本専門部独自の取り扱いがあるため、JVA 規定と異なる点などについて補注を加えております。本専門部の規定についても周知のほど、よろしくお願いいたします。

### 記

#### 1 基本方針

本専門部のユニフォーム規定自体の改定は行わず、当面の間は運用の変更によって対応いたします。

#### 2 運用の背景

JVA において今後も継続的な見直しや改訂が予定されています。現段階で高体連の規程そのものを書き換えた場合、将来的な再改訂による現場の混乱が懸念されるため、今回は規程の変更を見送ることといたしました。

一方で防寒などアンダーウェアの着用目的を考慮し、規程の文言は維持しつつも、実際の大会運営においては JVA の改訂内容を先行して適用し、選手の健康管理や心理的配慮に努めることといたします。

#### 3. 具体的な運用上の留意点

大会におけるアンダーウェアの着用については、「ユニフォーム規程詳解」にて示されたアンダーウェアに関する新しい基準を、現場での判断基準として採用します。

##### 【JVA ユニフォーム規程詳解 8 アンダーウェア】

アンダーウェアは着用しても良い。

ユニフォームの袖や裾、首等からはみ出しても良い。

①チームで色を統一しなくてもよいが単色であること。

（チームメンバー全員が着用する必要はない。長さ・種類は異なってもよい。）

②アンダーウェアの色はユニフォームのメインカラーと同色が望ましいが、ユニフォームの視認性・判別性を下げない色でも認められる。

#### 4. 選手番号等およびリベロプレイヤーの判別について

同詳解には、ユニフォームに表示する文字や選手番号、リベロプレイヤーのカラーについても詳細な解説がなされています。近年、判別しにくい選手番号やリベロのユニフォームが散見されますので、同資料の図解等を参考に、誰が見ても一目で判別できる明確な対比を確保した運用を徹底してください。

#### 5. 今後の対応について

JVA による規程の整備・定着を見極めた上で、適切な時期に本専門部の規程改定を検討いたします。それまでの期間は、本通知による運用対応を継続いたします。

以上

## 1. ユニフォーム

## (1)ユニフォーム

- ①ユニフォームとはゲームシャツ、ゲームパンツ、ソックスを指す。
- ②ユニフォームは配色やデザインが統一されていなければならない。(リベロプレーヤーを除く)
- ③チームは、カラーの異なった2種類のユニフォーム(ゲームシャツ・ゲームパンツ)を用意することが望ましい。
- ④リベロプレーヤーはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色のユニフォーム(少なくともゲームシャツだけは)を着用しなければならない。(左右対称とか上下対称ということではなく、はっきりと区別できるデザインであること。)リベロが2名の場合、リベロはチームの他の競技者と異なる色で、さらにお互いに異なる色のユニフォームを着用することもできる。

## (2)ゲームシャツ・ゲームパンツ

- ①ゲームシャツおよびゲームパンツは色、デザインが統一されていること。
- ②ゲームシャツは半袖、長袖、ノースリーブが混在していてもよい。<sup>※1</sup>

※1 JVA 資料にある通り、2027年4月以降、混在が認められなくなります。本専門部においても将来的に統一を求める方向ですので、新たにユニフォームを作成される際には形状を統一するようにお願いします。

- ③ゲームシャツの裾については、ゲームパンツに入る形状のみとする。<sup>※2</sup>

※2 高体連独自の規定です。JVAの規定と異なります。

## (3)ソックス

- ①色および長さが統一していること。

## (4)トレーニングウェアの着用

- ①気温が規定を下回る場合には、主審の許可を得て、全員が統一したデザインで競技者番号のついているものに限り着用することが出来る。

## 2. 競技者番号

- (1)ユニフォーム(ゲームシャツ)には、競技者番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。
- (2)競技者番号は1～20番までとする。ただし、やむを得ない場合は1～99番まで認める。
- (3)競技者番号のサイズは、次の通りとする。

	高さ	字幅
①シャツ胸部・中央	15cm以上	2cm以上
②シャツ背部・中央	20cm以上	2cm以上

- (4)ゲームパンツ前面右下に、高さ4～6cm、字幅1cm以上の競技者番号を付けてもよいが、全員がそろっていないなければならない。

## 3. チームキャプテン

- (1)チームキャプテンは、胸のナンバーの下に長さ8cm、幅2cmのマークをゲームシャツと異なった色で付けていなければならない。

#### 4. チームネーム

- (1)ゲームシャツの胸部もしくは背部に学校名または学校略称を付けなければならない。
  - ①学校略称は正式な校名が明確にわかるものとする。
  - ②校章や学校公式ロゴを付けてもよい。ただし、学校で規定されていないチーム独自のマークなどについてはこれを認めない。
- (2)ゲームシャツに所属する都道府県名を付けてもよい。ただし、文字のサイズは学校名または校名略称よりも小さくすることとする。
- (3)ゲームパンツに校名を入れる場合には(1)の規定に準じる。

#### 5. マニファクチャーロゴ

- (1)公益財団法人日本バレーボール協会(以下JVA)主催大会においてはJVAのユニフォーム規定に従うこととする。

#### 6. その他の表示

- (1)ユニフォームには上記2～5以外表示はつけてはならない。

#### 7. トレーニングウェア

- (1)トレーニングウェアは全員が統一されていることが望ましい。
- (2)トレーニングウェアには学校名、選手番号を付けることができる。

#### 8. アンダーウェア等について

- (1)アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されない。<sup>※3</sup>

※3 JVAでは規定の変更を行いました。高体連では今回の改訂は行わず通知の通り運用にて対応いたします。

- (2)医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険ある場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。
- (3)腰に帯状にまくサポーター・コルセット類はユニフォームの下に着用しなければならない。

#### 9. チーム役員の服装

- (1)全国高体連が主催する大会におけるチーム役員の服装については以下の通り規定する。ブロック大会ならびに都道府県大会における本規定の適用範囲については主催者の判断とする。
- (2)チーム役員は、ジャケットを着用するか、チームで統一された服装でなければならない。
- (3)監督がジャケットを着用し、その他のチーム役員が統一された服装であれば許可される。
- (4)統一された服装であっても、Tシャツ等の襟の無いものや、短パン、ハーフパンツは許可されない。<sup>※4</sup>

※4 チーム役員の服装で「襟の無いもの」の禁止は高体連独自の規定です。JVAの規定と異なります。

令和5年1月制定

追補 宣伝広告付きのウエアの着用禁止については別途通知「大会参加チーム構成員のウエアについて」に記載がありますので、ユニフォームだけでなく、大会会場で着用するウエアについてもご確認ください。

2026年3月26日

各都道府県高体連バレーボール専門部 委員長様

(公財)全国高体連バレーボール専門部

部長 早川 礼文

## 大会参加チーム構成員のウェアについて

全国高体連の指導によりバレーボール専門部常任委員会では、全国、ブロック、都道府県高体連が関わる(主催・共催・後援・主管等)大会の会場内において参加チーム構成員が着用するウェアに宣伝広告をつけることを禁止します。

備考)

適用するエリア・・・大会会場内(但し、大会によっては春高バレーのように主催者の判断により会場敷地内での着用を禁止することもあります。)

参加チーム構成員・・・大会に参加するチームの選手、スタッフ(引率責任者、監督、コーチ、マネージャー、トレーナー、補員、モッパ―など)、大会に選手登録されていない部員

ウェアに表示可能な内容・・・ユニフォームに準ずる

<別紙>

## 1 体罰根絶全国共通ルール制定のねらい

本ルールは、本連盟「競技者及び指導者規程」の第6条（指導者のあり方）及び第7条（罰則）に基づき、「体罰を行った指導者は、高体連主催大会には出場できません。」という高体連としての考え方を全国共通の具体的ルールとして制定する。体罰を行った指導者への詳細な罰則規定をつくるのが目的ではなく、本ルールの趣旨や内容を全ての運動部活動指導者、生徒、保護者、そして、社会全体にまで広く周知することにより、運動部活動にかかわる体罰の発生を未然に防止することをねらいとする。

## 2 体罰根絶全国共通ルール

- (1) 指導者（監督、コーチ、顧問教諭、外部指導者等）に関するルール
- ア 体罰を行った指導者については、原則として当該体罰に対する各教育委員会又は各学校の指導措置・処分等が確定後1年間、高体連主催大会に出場できないものとする。（選抜大会を含む）
- イ 体罰を行った指導者については、原則として高体連の役職を解くものとする。  
また、当該体罰に対する各教育委員会又は各学校の指導措置・処分等が確定後1年間、原則として高体連の役職に充てない。
- (2) 本ルールは、平成26年7月1日より施行適用する。

## 3 体罰根絶全国共通ルールの運用について

- (1) 本ルールにおける体罰は、平成25年5月文部科学省の「運動部活動での指導のガイドライン」にある「体罰等の許されない指導と考えられるものの例」を参考にして、適用の対象とする。  
参考：[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)
- (2) 本ルールの適用に当たっては、該当指導者に対する各教育委員会又は各学校の指導措置・処分等が確定した後、該当校の校長が、該当指導者本人の了解を得た上で、別紙様式により各都道府県高体連に報告する。
- (3) 運動部活動にかかわる場面での体罰について、本ルールを適用する。  
（ミーティング中、部員への個別指導中、運動部の寮生活等の場面を含む。）
- (4) 各教育委員会又は各学校の指導措置・処分等の内容に、大会出場停止や高体連の役職停止の期間がある場合は、その期間を本ルールの1年間の中に含むこととする。
- (5) 本ルールを適用される指導者は、適用される旨の連絡を受けた日から2週間以内に、（公財）全国高等学校体育連盟会長宛に不服申立書を提出して不服を申し立てることができる。ただし、本ルールそのものに関する不服申立てを除く。

# 2026年度 6人制ルールの取り扱いについて

2026, 3, 20

## 【1】 プレーの動作に関する事項

### 9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは身体の中のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむことや投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.2.3 ボールは接触が同時であれば身体のさまざまな部分に触れてもよい。

例外：

9.2.3.1 ブロックでは、1つの動作中であれば1人または2人以上のブロッカーが連続して接触してもよい。(規則 14.2)

9.2.3.2 チームの1回目のヒットでは、1つの動作中であればボールは身体のさまざまな部分に連続して接触してもよい。(規則 9.1)

### 9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 図⑩)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑪)

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑫)

(注)

- 1 プレーのハンドリング基準は、試合を通して統一されなければならない。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。
- 5 チームの2回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則にならない。アタックヒットが完了(ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触)したときは、ダブルコンタクトの反則になる。

<詳解>

- ・オーバーハンドパスをしたボールが、そのプレーヤーの手から滑り身体の他の部位にあたった場合は、ダブルコンタクトの反則となる。
- ・チームの2回目のヒット後、アタックヒットが完了（ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触）したときにダブルコンタクトの反則が成立するため、それまでに別の反則が起きた場合、その反則が優先される。

### 12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。（第11図①）

（注）

- 1 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、サービスのホイッスル前に促す。必要であれば遅延行為に対する罰則を与えなければならない。  
もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。
- 2 ポジション4にリベロがいる場合は、ファーストレフェリーはチームが正規の選手にリプレイスメントするのをサービス許可のタイミングまで待つ。それでもリプレイスメントが行われない場合は、セカンドレフェリーを通してアシスタントスコアラーに確認後、リプレイスメントさせ、その後遅延行為に対する罰則を与える。  
もしラリーが始まった場合、ポジショナルフォルトとして処置をする。
- 3 サービス許可のタイミングで、その他の不法なリベロリプレイスメントが行われており、ファーストレフェリーが分かっている場合も、上記2と同様の処置を行う。

### 12.5 スクリーン

12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成してサービスヒットおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

12.5.2 サービスが行われるとき、サービングチームの1人または複数の選手が集団で腕を揺り動かしたり、跳びはねたり、左右に動いたりして、あるいは集団で固まって立ち、サービスヒットとボールのコースの両方をボールがネット垂直面に到達するまで隠すことでスクリーンとなる。サービスヒットまたはボールのコースがレシービングチームに見えるのであればスクリーンではない。（第6図）

12.5.3 サービングチームの選手は、サービスボールがネットを越えるまで、手を頭より上にあげてはならない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。

(注)

- 1 チームが意図してスクリーンを形成している場合や、プレーヤーが手を頭より上にあげている場合（頭を保護するために、頭の後ろに手をあげることは許される）、スクリーンの反則になることがある。
- 2 上記のようなケースをサービス許可前に気づいた場合は注意をする。また、サービス許可後に生じた場合はラリー終了後、ゲームキャプテンに注意する。

## 【2】 プレーの構造に関する事項

### 7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、サーバーを除き、両チームはそれぞれのコート内に位置していなければならない。

レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

(注)

- 1 レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。トスをする瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりしたケースは反則となる。セカンドレフェリーは、サーバーとレシービングチームのポジションを視野に入れるために、支柱から少し離れて判定をする。サーバーがトスをする瞬間までに、完全に入れ替わり反則となるケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 2 レシービングチームにポジションの反則が起きたときは、サービスヒットの瞬間にホイッスルする。
- 3 サーバーが反則（不適切なサービスの実行やローテーション順の間違いなど）をした場合、相手チームにポジションの反則があったとしてもサービスの反則となる。

## 【3】 競技参加者の行為に関する事項

### 20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.1.2 競技参加者はレフェリーの決定に対してスポーツマンらしく反論せず受け入れなければならない。

疑問がある場合はゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。

(規則 5.1.2.1)

20.1.3 競技参加者はレフェリーの決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

(注)

- 1 判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
  - 2 競技参加者が、規則 20 (スポーツマンにふさわしい行為、フェアプレー) に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
  - 3 不法な行為については、その程度に応じて、適切な処置を行う。  
レフェリーの判定に対しチームが納得しないこともある。しかし、それにより不法な行為を行っても良いという理由にはならない。
- 23.2.4 ファーストレフェリーは自分が下した判定に関していかなる論争も許してはならない。  
とあるように、どのような場面でも毅然と対処する。
- 4 競技参加者が、判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①最終判定後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせた場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、繰り返された場合。
- ④一度指導されているにもかかわらず、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問した場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①判定に対して抗議や不満を表す態度を必要以上に示した場合。
  - ②判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 試合中にゲームキャプテンのみが、レフェリーに質問や競技規則の適用や解釈について説明を求めることができる。  
監督はリベロの再指名の時や得点が正しくない時などに声かけ程度はできるが、セカンドレフェリーやスコアラーに、説明を求めたり、長く話しかけたりすることはできない。
  - 6 先にペナルティ・退場・失格の罰則を適用した後、同じチームに軽度の不法な行為があった場合、ステージ 2 を適用せず、ペナルティ (レッドカード) を適用する。

(2014 年度の取扱いからの修正)

(例)	無作法な行為	⇒	軽度の不法な行為 1 回目	⇒	同 2 回目
選手	No.5		No.6		No.2
処置	レッドカード		レッドカード		レッドカード

## 20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジの判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。
- 2 試合終了後、監督とファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

### 【4】 レフェリーに関する事項

#### 23.3.2 ファーストレフェリーの責務

23.3.2 試合中、ファーストレフェリーは次の権限を持つ。

23.3.2.3 b) ボールをプレーするときの反則。(規則9.3, 第11図⑰⑱⑲)

(注)

- 1 チームの3回目のヒットが、ネットを越えずその選手が続けて触れた場合、ダブルコンタクトではなくフォアヒットのシグナルを示す。

#### 29.2 ラインジャッジの責務

29.2.1 ラインジャッジは40×40cmのフラッグを使用して次のことをシグナルで示す：

29.2.1.3 ボールがアンテナに触れたとき、またはサービスボールおよびチームの2回目または3回目にヒットされたボールが許容空間外側のネット垂直面を通過したとき。

(規則8.4.3, 8.4.4, 第5図a, 第12図④)

(注) ラインジャッジのフラッグシグナルの修正

- 1 ラインジャッジは、2回目または3回目にヒットされたボールが、許容空間の外側のネット垂直面を通過したときにフラッグを振る。(第12図④)